

令和6年秋季 須磨まち歩きの会 実施記録

** 古山陽道を多井畑から下畑へと史跡巡り **

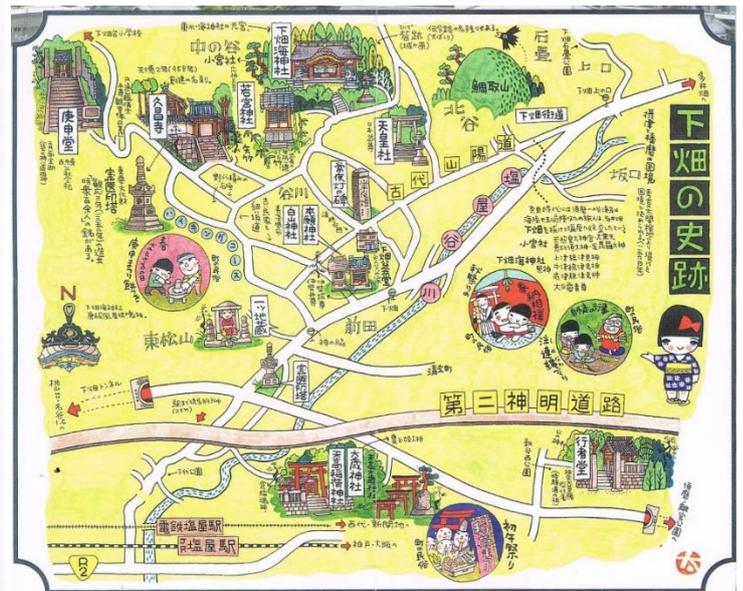
<健康ウォーキング>

- (1) 開催日： 令和6年11月16日(土) 10時～12時
- (2) コース

多井畑厄神・階段下鳥居前集合 (10:00 スタート)

- ⇒ 多井畑厄神八幡宮 ⇒ 猿田彦神社 ⇒ 松風・村雨の墓
- ⇒ 鏡の井 ⇒ 義経腰掛の松 ⇒ (古山陽道を移動)
- ⇒ 下畑海神社 ⇒ 久昌寺 (12時解散) <全行程、約4km>

<多井畑・下畑の史跡案内>



(3) ガイド： 住本幸博氏 (元・NPO 須磨歴史倶楽部メンバー)

(4) 参加者数： 7名

(5) コース概要

本年度の秋季須磨まち歩きの会は須磨区が多井畑から垂水区となる下畑へと足を延ばしました。

いにしへの奈良時代、須磨一の谷海岸の狭い危険な道を迂回し、多井畑から下畑を通り塩屋に抜けて人々が往来したといわれるルートの一部をたどりました。紅葉真っただ中となる時期にはまだ若干早い様でしたが、多井畑や下畑に残る山里の景色に色づき出した木々の葉や柿の実から秋を感じ取ることができました。

(6) 写真集

<多井畑厄神階段下集合>



<多井畑厄神八幡宮>



* 安全祈願を行う

<猿田彦神社>



多井畑の厄神さんのすぐ北側に、村の道祖神・猿田彦神社の森があります。
この森のほぼ中心に、根回り4.5メートル、枝の広がりが20メートルを越すウバメガシの大木があります。樹皮にはヒトツバや地衣類が着生し、まるで大蛇のごとき風格を備えています。

<松風・村雨の墓>



須磨に侘び住まいした在原行平が愛した多井畑の村長の二人娘の墓。左が姉の松風、右は妹の村雨との伝。

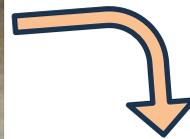
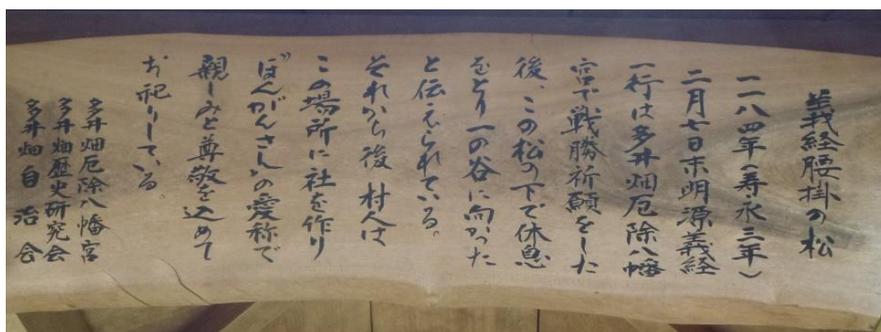
近くには「落武者の墓」が祀られており、源平の合戦に敗れ、この地で自害した平家の落武者13名の墓として今に言い伝えられています。

<鏡の井>



* 松風・村雨姉妹もこの様に水鏡として
麗しきお顔を映していたのかしらん？

<義経腰掛の松>



* 色づいた柿の実が秋の風情を…。

<下畑海神社>

下畑は鉄拐山の北、東は多井畑に接し摂津と播磨の国境の地であり、神社は村の中ほど高台の城が原(明石藩の出城跡?)にある。氏は70戸ほどで、御祭神は宝暦年中(1751~)に垂水村鎮座の日向神社(海神社)の御分霊を迎え下畑村の鎮守の神としてお祀りしたと伝えられています。

10月の例祭後に、神前の土俵で「神相撲」が行われています。



<久昌寺：臨濟宗妙法寺派禪寺>



久昌寺の住職 福山昇山さまから当寺や境内にある、重要文化財：宝篋印塔（ホウキョウインノウ）の謂われや下畑の古事についてのお話を御伺いした。なお、本塔のレプリカが神戸市立博物館に常設展示されているとの事です。

* 参考～出典

<https://ohakakiwame.jp/column/memorial-service/houkyointou.html>

宝篋印塔は、「一切如来心秘密全身舍利宝篋印陀羅尼経（宝篋印陀羅尼/ほうきょういんだらに）」という経典を納めるための経塔が元になっており、「宝篋印塔」という名称もここからきている。

宝篋印塔を礼拝供養することによって、亡くなられた方が現世で犯した罪を消し、極楽浄土へ往生できるとされている。また、宝篋印塔は多数の如来が集っているとも考えられており、ご先祖様の供養だけでなく、子孫を守り、一族を繁栄へ導くともいわれている。



* 鐘に興味ある S さん～鐘を撞くなり久昌寺

・文責（幹事）：梅田孝一